

開催地名：長野県長野市	
開催日時	令和元年 10 月 25 日（金） 9：45 ～ 11：15
開催場所	長野市立昭和小学校
語り部	武蔵野 美和 （岩手県陸前高田市）
参加者	4 年生児童、保護者、教職員 約 230 名
開催経緯	洪水や地震等の災害がある地域であるにも関わらず、核家族化に伴い過去の災害や教訓について話を聞く機会がほとんどなく、その実情を知る機会が少ないのが現状である。そこで、語り部によるお話を伺うことで、幼少時から災害の実態について知り、保護者や児童に備えることの大切さを知ってもらいたい。
内容	（１） はじめに 10 月 13 日未明に、台風 19 号の影響で、皆さんが住んでいるここ長野市でも千曲川が氾濫し、広範囲に及ぶ被害が出ている。いつ、どこで、どのように起きるか分からないのが災害なので、他人事だとは思わずに、災害に備えることの大切さについて、是非考えてほしい。 私が住む陸前高田市は、岩手県南部の太平洋側に位置しており、岩手県の中では比較的温暖な地域で、東北の湘南とも呼ばれている。陸前高田市は、東日本大震災で津波の被害を受け、まちがなくなってしまった。たくさんの方が津波で流され、多くの方が亡くなった。助かった人も、避難所での生活を余儀なくされた。 （２） 東日本大震災の被害状況 三陸沿岸は昔から津波の被害を受けてきた。さかのぼれば、明治三陸大津波や昭和三陸大津波、チリ地震の津波の被害が有名である。これらの津波被害を受け、対策が講じられ、情報網も整備されていたにも関わらず、東日本大震災では多くの犠牲者を出してしまった。市内の公共施設についても、市庁舎や図書館、体育館、公民館、小中学校や保育所等の多くの施設が全壊した。人口 24,246 名のうち、死者・行方不明者は 1,757 名にのぼった。両親を亡くした子供が 32 名もいた。お父さんもしくはお母さんを亡くした子供は 115 名に上った。いまだに仮設住宅に住んでいる人たちは 2,000 名以上いる。 「自分は大丈夫だ」という思いが自然に働き、過去の大津波を体験している人であっても、逃げなかった人が多くいた。地震が発生してから津波が押し寄せるまでの 40 分間、逃げた人と逃げなかった人では大きな差が出てしまった。 （３） 避難とは 陸前高田市では、避難場所の半数以上が被害に遭った。一部の地区では、訓練時に使用していた地区防災センターに多くの方々が避難したが、実は当該防災センタ

一は指定避難所ではなかったため、避難所だと思い込んで避難してきた方々の多くが犠牲になってしまった。皆が避難場所を正しく理解し、逃げる事が出来なければ、避難とは言えない。皆さんの住んでいる地域では、避難訓練を日頃から実施しているだろうか。陸前高田市ではそのような訓練が行われていなかったために、多くの犠牲を出してしまった。日頃から「万が一」を考え、自分の命を守るための「備え」を意識していただきたいと思う。災害は、学校にいるときに起きるかもしれないし、自宅にいるときに起きるかもしれない。どこにいても、その時に応じた避難行動について、学校や家族と確認しておくことが大切である。そして、避難と避難所へ行くことは同じではないということを認識していただきたい。身の安全が確保できるのであれば、とどまることも重要であり、家が安全であれば家にとどまっていれば問題ない。究極の防災は、逃げなくても良いところに住むことだと思う。

(4) 避難所について

避難所での避難生活では、一般的な備えしかない。アレルギーに対応した食品や、赤ちゃんのミルク、個々の病状に応じた薬等、それぞれにとっては必須のものであっても、一般的なものでなければ用意されていないのが現実である。対応できなければ困ることは自分で備える必要がある。一時避難時の食事についても、個々で確保するのが基本である。そこでお勧めしたいのが、「ローリングストック」である。「ローリングストック」とは、食べ物や日用品を少し多めに購入し、日常生活で普通に消費していく取組で、常に少し多めの状態を維持して、古いものから順番に消費していくという方法である。食料や日用品の他に、カセットコンロや懐中電灯、充電式ラジオ、簡易トイレなどは災害時に特に必要なものであり、用意しておくことを併せてお勧めしたい。



開催地より

震災時の写真を使用しながら、実際の体験談を基に貴重なお話をしていただき、児童にわかりやすい内容であった。災害に対する備えについて、一人ひとりが考える良い機会になったと思う。